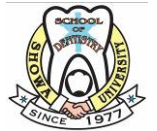




発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 巻頭言

歯学研究科運営委員会委員長 上條 竜太郎

昨年9月、文部科学省科学技術政策研究所は「研究者定点意識調査」の結果を発表しました。その中には、日本の研究水準の低下に対する危機感が報告されています。具体的には、研究者の研究時間の減少、科学技術関連予算の不足、次世代を担う若手研究者の育成・確保への危機感などが示されています。本調査ではさらに、「現状では多くの分野で日本の科学技術水準や国際競争力は欧米と同等だが、5年後には日本の優位性は低下する」と警告しています。



我が国の歯学研究も例外ではありませんし、本学歯学研究科も実に様々な問題に直面しています。私立学校振興・共済事業団が「私立大学等経常経費補助金」の一部であった「研究科特別経費」を今年度から突然廃止したことはその一例です。これが歯学研究科の研究活動に及ぼす影響ははかり知れません。

本学歯学研究科は昭和56年の開設以来、多くの分野で本邦の歯学研究をリードしてきました。この実績をもとに平成17年、文部科学省ハイテクリサーチセンターの選定を受け、「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」をメインテーマとする研究を展開しました。本プロジェクトは本年3月に終了し、文部科学省の最終評価も良好で、歯学研究科として初めて取り組んだ大プロジェクトは成功裏に終了しました。本年3月からは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定を受け、新規プロジェクト「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点形成—アンチエイジングに貢献する新たな付加価値の創生—」を推進しております。これらはいわゆる「競争的研究費」とよばれ、採択にあたっては課題の独自性、社会的貢献度、これまでの研究実績等が重視されます。これらのプロジェクトに連続して採択されたことは、本学歯学研究科が対外的に高く評価されていることの証です。

しかし近年、本学歯学研究科も原著論文発表数や科学研究費補助金の採択件数の低下に直面しています。私立歯科大学を取り巻く環境は熾烈さを極

め、本学歯学研究科が他の追随を許さない存在感を将来にわたって築いていくことは、決して容易ではありません。教育・研究・診療の充実が、私達に課せられた社会的使命であり、今後は、限られた時間で効率的な研究を行うことが必要で、本学の個性、特色を発揮し、柔軟な発想に基づくユニークな研究を展開する事が重要です。本学歯学研究科の将来を担う後継者を養いつつ、教室という垣根を超えて世界を驚かせる成果を挙げられればと思います。

## 南カリフォルニア大学クラーク先生、マリガン先生がいらっしゃいました

歯科補綴学教室 樋口 大輔

7月2日より南カリフォルニア大学より2名の教授を昭和大学歯学部招聘し、歯科補綴学教室でお世話しています。クラーク先生は睡眠時ブラキシズムや睡眠時無呼吸の基礎的・臨床的研究の第一人者であるばかりでなく、IT技術を駆使した先進的な歯学教育を手がけられてきた先生で、滞在期間中には昭和大学と共同で仮想患者を用いた新たな教育資源の開発に携われます。一方奥様のマリガン先生も、米国の高齢者歯科学会、障害者歯科学会の会長を歴任された非常に高名な先生です。両先生とも日本補綴歯科学会と共同開催するオンラインコースや講義、PBLを通して昭和大学の卒前・卒後の教育に貢献して下さる予定です。

先日行われたウエルカムパーティーには当教室の医局員はもちろん、学生達も積極的に話しかけ、昭和大学の国際化が学生へも広がりつつあることを改めて実感いたしました。12月22日までの約半年間ですが、とても親しみやすい先生方ですのでお見かけになったら気軽に声をお掛けください。



## D1 物理、化学、生物、国語のプレースメントテストが実施されました

教育委員会副委員長 山田 庄司

標記の理科と国語のプレースメントテストは、教育部の教育を改善するための参考データを集める目的で、オリエンテーション期間中の4月21日に新入生を対象に行われました。

今回で2回目になる理科は、物理、化学、生物それぞれについて高等学校の教科書レベルの問題と、高等学校で履修したか、好きな科目であったか、受験勉強したかの調査を行いました。また、初めて行われた国語では、語彙力を問う問題を中心に出题されました。新入生の皆様には、入学早々にお疲れ様でした。これらの結果は、今年の夏に行われる「教育部教育者のためのワークショップ」において検討され、教育部のより良い教育を目指した改革に役立てられます。

## D2 臨床入門が実施されました

D2臨床入門実施責任者 塚崎 弘明

本年度も、6月25日(金)午後から4回に渡りD2臨床入門(実習)が歯科病院において実施されました。本実習は学生に早期に歯科臨床に対する理解を深めてもらうことを目的として、3年前に開始されました。学生は3グループに分かれて実習を行います。「歯科病院の患者付き添い実習」では学生が患者さんの診療から会計終了時まで行動をとることで、患者さんの目線で歯科病院の業務を経験します。「ユニット操作と診察の体験」では、学生が交代で患者役・歯科医師役となり、ユニットの操作と模擬診療を体験します。「印象採得の経験と歯列模型の作製」では、お互いの歯列印象をアルジネート印象材を使って採得した後、石膏模型を製作します。学生は歯科病院での実習という初めての体験に緊張し戸惑いながらも、熱心に、そして楽しそうに実習に参加していました。また、指導の先生・病院スタッフ・患者さんの御協力により、前年度以上にスムーズに実習を行うことができました。



実習終了後の発表会では、「歯科に対する認識が深まった」、「医療人としての心構えができた」、「基礎科目で学んだことが臨床でどのように役立つかが理解出来た」等の声が聞かれ学生にとって大変有意義な実習となったようです。来年度も実施の際には、関係各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。

## D6 大野可那子さんが日本さくらの女王に選ばれました

広報委員長 井上 富雄

今年の3月に歯学部6年の大野可那子さんが「第23代日本さくらの女王」に選出されました。(財)日本さくらの会は昭和39年(1964年)東京オリンピック開催の年に日本の花「さくら」の愛護、保存、育成、普及等を目的に設立された団体です。大野さんは「さくら」を象徴する親善大使として、2012年3月までアメリカ・ドイツ等諸外国や、国内自治体各地で開催される「さくらまつり」や「さくら植樹式」へ出席し、友好・国際親善の為にボランティア活動を行う予定です。この4月には、ワシントン D.C.とフィラデルフィアのさくら祭りに参加されました。さくらは日本というイメージですがアメリカでも多くの人に愛されています。特にワシントン D.C.では、日米親善のために約100年前に日本が送ったさくらがポトマック河畔で見事に咲いて、世界の名所の一つになっているとのことです。卒業を控えて何かと忙しいと思いますが、勉学と両立してさくらの女王を立派に務められるよう祈っています。



## 診療統計(平成22年6月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	19,032	732.0	734.3	742.5
入院患者	431	14.4	13.7	14.3



## 日本補綴歯科学会インターナショナル・オンラインコースが開催されます

歯科補綴学教室 樋口 大輔

歯科補綴学教室では日本補綴歯科学会と共同で、若手研究者を対象にしたインターナショナル・オンライン・コース「Designing Clinical Research」を開催しています。現在、当講座に滞在中のクラーク先生が本コースのオリジナル・デザイン開発、ウェブ・サイト作成とコースの総括を、マリガン先生は講義と受講者作成プロトコルの評価を担当されます。このコースでは臨床研究デザインの基本事項と文献の批判的評価法を10週間の完全オンラインで学習します。すべて英語で行われるカンファレンス、レポート提出など、受講者にとって非常にタフな内容ですが、その反面非常に大きな財産になると思います。なお、今秋当教室が主管する日本補綴歯科学会東京支部会（10月16日、上條講堂）では成果発表会を行い、優秀賞を表彰する予定です。興味のある方は是非ご参加下さい。



## 昭和大学大学院 歯学研究科博士課程 学生の秋季募集が行われます

歯学研究科運営委員会委員長 上條 竜太郎

季入学制度を開始致します。募集人数は若干名で、現在の春季入学と同様に社会人特別選抜も実施します。社会人特別選抜には、本学の臨床研修医も出願可能です。入学試験の日程等は下表の通りです。詳細は募集要項（教務課にて配布）をご覧ください。

	試験日	出願期間	合格発表	入学手続
秋季入学	H22年 8月28日 (土)	H22年 7月1日 (木)から 8月6日 (金)	H22年 9月16日 (木)正午	H22年 9月17日 (金)から 9月24日 (金)

## テンプル大学主催講習会に参加しました

高齢者歯科学教室 内田 圭一郎

去る6月25-27日にテンプル大学主催のインプラント講習会が、ハワイ・オアフ島の Hale Koa ホテルにおいて開催されました。昨年から当大学主催の講習会には数回参加させていただきましたが、今回のテーマは「インプラント治療におけるトラブルシューティング」でした。参加者は30人程度（半数が日本人）で、1日目はその先生方のケースを持ち寄って症例検討会のような形式で進行されました。2日目は講師の先生自らが経験したトラブルを例に挙げ、PBL さながらのチームディスカッションを行いました。「恥ずかしくて聞けなかったけど、こういうことってたくさんあるよね？」という症例のオンパレードと、独特の講習会形式であったためか、とても活気のある講習会となり、あまりの盛り上がり講師陣が困り果てる一面もありました。

講習会最終日に、講師陣のリーダーである Albert Salama 先生が「私にとって、日本人患者のインプラント治療が一番難しい」という言葉がとても印象に残りました。今回この講習会に参加する機会を与えてくださった佐藤教授ならびに不在中サポートして下さったスタッフの皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 2010 ICOI JAPAN Implant Symposium で D6 の学生、笠木星児君が Student Award を受賞しました

広報委員長 井上 富雄

去る5月15日-16日(日)にパシフィコ横浜で、2010 ICOI (International Congress of Oral Implantologists) JAPAN Implant Symposium (後援: 日本顎咬合学会, 日本歯周病学会, 日本補綴歯科学会)が開催されました。同会において歯学部6年の笠木 星児君が、「歯槽骨造成術後の不成功例に対する臨床的検討」(指導: 顎口腔疾患制御外科学教室)という演題名でポスター発表を行い、Student Award を受賞しました。



## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 8月 7日(土): 歯学部オープンキャンパス(洗足)
- 8月26日(木)-27日(金): PBL ファシリテータ養成・シナリオ作成ワークショップ
- 8月28日(土): 歯学部オープンキャンパス(旗の台)
- 9月 4日(土): 歯科病院研修歯科医採用試験
- 9月12日(日): 歯学部オープンキャンパス(旗の台)
- 9月23日(土): 昭和大学学術シンポジウム

本年度より大学院歯学研究科博士課程では、秋

## 第30回昭和歯学会総会が開催されました

歯科保存学教室 鈴木 敏光

第30回昭和歯学会総会が平成22年7月3日(土)に昭和大学歯科病院6階第1臨床講堂で開催されました。今回は午後からの開催で、12時から宮崎隆会長の開会の辞に引き続き、評議員会および総会が開催され、担当理事から庶務報告、学会報告、編集報告が行われました。その後、平成21年度の会計決算、平成22年度の活動計画案および会計予算案が提出され、承認されました。12:20から一般演題の発表が始まり、13演題が発表されました。

14:50から上條奨学賞研究補助受賞講演として、歯科理工学教室の柴田陽先生が「口腔インプラントの表面改質に関する研究」と題して講演されました。続いて、研究紹介講演として総合歯科の佐野晴男先生が「ハイリスク患者への対応-総合歯科の日常から-」と題して講演されました。16:00からは特別講演として東京理科大学・総合研究機構 辻 孝先生に「歯科再生治療の実現を目指した“歯の再生”研究の戦略と展開」と題して1時間の講演をしていただきました。

17:00から一般演題が再開され、4演題が発表されたのち、山本松男学会担当常任理事から閉会の辞があり、盛会のうちに総会は終了致しました。



論文名:「Stage I・II舌癌頸部リンパ節後発転移例の予後:節外進展の組織像との関係」

・石橋彩子(高齢者歯科学教室 員外助教):平成22年6月13日に第119回日本補綴歯科学会において平成21年度奨励論文賞を受賞されました。

論文名:「顎堤検査における検査用スケールの臨床的有用性に関する研究」

・館 慶太(歯科補綴学教室 員外助教):平成22年6月13日に第119回日本補綴歯科学会において課題口演優秀賞を受賞されました。

演題名:「TGF-BETAはBMPの骨誘導活性を強力に促進する」

・安部友佳(東京医科歯科大学大学院生, 昭和大学歯学部歯科補綴学教室にて研究):平成22年6月13日に第119回日本補綴歯科学会において課題口演優秀賞を受賞されました。

演題名:「睡眠時ブラキシズム寄与因子の検討-セロトニン関連遺伝子多型を含めた多変量解析-」

・宮内知彦(歯科補綴学教室 大学院4年生):



平成22年7月22日に第28回日本骨代謝学会学術大会において優秀演題賞を受賞されました。

演題名「毛包神経堤細胞の分離とその細胞からの象牙芽細胞への分化誘導」

## 受賞

広報委員長 井上 富雄

・木村洋子(小児成育歯科学教室 員外助手):

平成22年5月28日に第34回日本口蓋裂学会において日本口蓋裂学会優秀ポスター賞を受賞されました。

演題名「片側性唇顎口蓋裂児における永久歯萌出順位に関する検討」

・木村幸紀(歯科放射線学教室 講師):平成22年6月10日に平成21年日本頭頸部癌学会優秀論文賞を受賞されました。



## 編集後記

小児成育歯科学教室 小田 訓子

今年の7月は梅雨と猛暑の月でした。地球温暖化の影響なのか、局部的豪雨の被害も耳にします。今年も、昭和大学はエコ対策の一環に冷房の設定温度を28度にして少しでも地球の二酸化炭素排出削減のお手伝いを学生・職員一同で取り組んでいます。

夏休みに入り、真夏日の連続記録が更新されているようです。室内にいても熱中症で倒れる話が連日報道されています。皆さんも体調には十分御留意下さい。最後に、学期末、夏のお忙しいところ今号にご執筆頂きました先生方に篤く御礼申し上げます。